

## キャリア教育調査研究委員会

### 一 テーマ

児童生徒一人ひとりが夢や希望をもち、自己実現を目指して自己の個性を理解し、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育てていくキャリア教育のあり方

### 二 テーマ設定の理由

今回の学習指導要領の改訂において、特別活動を要として、学校教育全体を通してキャリア教育を進めていくことが示された。変化の激しい社会にあって、個々の児童生徒が将来における職業生活に備え、学校で学ぶことと社会との接続を意識した「社会的・職業的な自立に向けて必要な資質・能力」の育成は、自己実現を図る上で今日的な課題となっている。さらに、委員会の中で、コロナ禍により、中心となる体験活動が制限される中で、どのようにキャリア教育を推進していけばよいか難しいという意見が多く出された。そこで、上記テーマを設定し、各校の現状での課題をもとに、「1 キャリア・パスポートの活用の工夫」「2 学校と地域社会との連携の推進」「3 キャリア教育の学びの視点や資質・能力を意識し、取り組み内容を整理する」の3点に重点をおき、研究を進めていきたいと考えた。

### 三 研究の経過

5月18日(火)	…第1回委員会	研究計画立案
7月8日(木)	…第2回委員会	各校の実践報告と情報交換
9月16日(木)	…第3回委員会	研究の進捗状況と情報交換
10月21日(木)	…第4回委員会	研究の進捗状況と情報交換
11月29日(月)	…第5回委員会	「研究のまとめ」の作成と研究発表準備
1月18日(火)	…キャリア教育研究発表	

### 四 研究内容

#### 1 「キャリア・パスポート」の活用の工夫

##### (1) 上田市立第一中学校の実践から

キャリア・パスポートには、学期の目標やまとめ、キャリア教育に関わる学習カードなどを綴じ込んでいる。しかし、綴じ込むことが中心となってしまう、活用できずにいた。そこで、年度の初めに、「2年生になって」というテーマで作文を書いたものを、学期の終わりに見返して、振り返りを行った。生徒の振り返りを読むと、「〇〇については達成できたが、△△は不十分だった。」というように、自分の目標に対して、どうであったかという振り返りを行う姿が見られた。また、振り返りを踏まえ、次の学期に意識したいことを書いている生徒もいた。キャリア・パスポートを見返す時間をつくると、ただ漠然と学期にあったことや学びを振り返るのではなく、自分が立てた目標に対して、どうだったのか、これから自分はどのようにしていきたいかという過去や未来の自分を見つめる機会になると感じた。

##### (2) 上田市立城下小学校の実践から

本校はこれまで学期初めに「学期の個人目標」終わりに「学期の振り返り」合計6枚を基本に運動会や音楽会などの行事の振り返りをキャリア・パスポートに綴じ込んでいた。そのため、キャリア・パスポートが学期の学習面や生活面の振り返り、行事の反省となっていることが多く、キャリア・パスポートがキャリア教育に結びついていなかった。そこでキャリア

ア・パスポートに『キャリア教育の学びの視点』に立った振り返りを書く項を設け、キャリアア・パスポートとキャリア教育とを結びつけるように試みた。『キャリア教育の学びの視点』に立った振り返りを言語化できたことで、キャリア教育の学びの視点や能力である『自己理解』『自己管理』ができるようになってきている。

## 2 学校と地域社会との連携の推進

### (1) 東御市立祢津小学校の実践から

生活科・総合的な学習の時間で、子どもの興味や関心を大切にしながら、学年の実態に応じたカリキュラム学習を行っている。その中で、地域の方による「学校応援団」の皆さんに学習に協力していただいている。地域で農業を営む方、生物の理解が深く保護活動を行っている方、地域の歴史や伝統に詳しい方に接し、地域に親しむとともに、職業理解を深められるようにしている。

また、高学年では、地域や社会のために自分達にできることはないか話し合う場を意識して設けている。特に、6年生では、1～5年生で地域の方に教わってきたことを振り返る場を設定した。そうしたことで、お世話になってきた方々の存在や、地域の豊かな自然、歴史、産業に改めて気づき、成長した自分たちが地域へ恩返しをしたいという願いに沿って活動を考え、意欲的に学習に取り組むことができた。

### (2) 上田市立北小学校の実践から

例年5・6年生による職場体験を「地域の職場で実際に働く経験をさせていただく中で、働くことの意義を考え、生きる力の醸成につなげる。」「地域の多様な人々との関わりから、多くの人に見守られながら自分が生きていることを感じ取り、あいさつやコミュニケーションといった社会力を身につける機会とする。」という2つのねらいのもと行っている。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大のため実施できなかったが、児童会企画「ラブ北小月間」の「上田じまん」で、職場体験でお世話になっている事業所にアンケートを送り、事業所の自慢や秘密などを回答していただいた。「自分たちが通う北小を好きになれば学校生活が楽しくなる。北小がある地域も好きになれば北小ももっと好きになる。」と考えている児童会長に地域連携職員が協力し、コロナ禍の制限された環境の中であったが、地域の多様な人々と関わる場を設定することができた。



### (3) 東御市立東部中学校の実践から

1学年の総合的な学習において、地域のいいところ探しを行った。まず出身小学校ごとに集まり、雷電くるみの里やワイナリーなど、学区内の魅力ある場所を出し合った。出された候補の中から自分が興味を引かれる場所を選び、3～4人のグループに分かれ、ipad等を利用して下調べを行った。その後、実際にその場に赴き、職員の方にインタビューをしたり、その場の写真を撮ったりした。今後、インタビューで得られた情報や、その場所の魅力を新聞にまとめ、2月の参観日に保護者に向けて発表する予定。また、インタビューのしかたや新聞でのまとめ方は、信濃毎日新聞の記者の方に出前授業で指導していただいた。



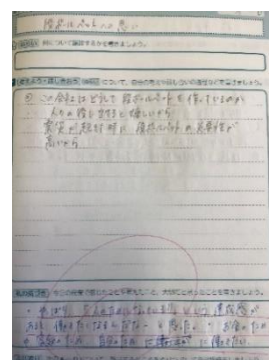
2学年の総合的な学習において、1学期は、自分が中学校を卒業したあとにどんな人生を歩むのかを想像してチャートにしたり、仕事をする上でどんなことを大切にしたいのかを考え、友達と意見を交換したりして、働くことの意義や、将来の自分の姿へのイメージをもった。

2学期は職場体験学習に替わる活動として、職場取材活動を行った。ipad等を利用しながら自分が興味を持てる地域の職場を探し、職場ごとに数人のグループに分かれた。グループごとに代表者が電話で取材が可能かどうかの確認と、可能であればその日時を打ち合わせた。取材のしかたや、新聞へのまとめ方を事前に信濃毎日新聞の記者の方に出前授業で指導していただき、取材を行った。後日、取材した内容を新聞にまとめ、学芸発表会に展示した。また、ジョブカフェ信州のキャリアコンサルタントである白石真樹様や、地元の企業である株式会社唐沢農機サービスの代表である唐沢健之様の講演会をお聞きした。コロナ禍ではあったが、地域の多くの職場に受け入れていただき、生徒にとっても貴重な体験となった。



#### (4) 東御市立東部中学校の实践から

キャリア教育の視点から「段ボールベッドへの思い」という2学年の道徳教材を、「役割理解」の観点を意識しながら扱った。「段ボールベッドへの思い」は、段ボールを作る会社が、東日本大震災の被災者のために段ボールベッドを考案し、被災地に無償で提供した。さらに、設計図も無償で公開したという話だ。教材を読む前に、人は何のために仕事をするのか問いかけたところ、「お金を得るため、家族を養うため、楽しいから」といった意見が出された。教材を読んだあとに、この会社がなぜ段ボールベッドを開発し、設計図を無償公開したのか考えさせたところ、社会に貢献し、誰かの役に立つことも働く理由になることに生徒達は気づいた。授業を通して、お金を稼ぎ、自分や家族の生活を守ることも働く理由として大切だが、仕事の質を高めるものは、理念や信念、理想といったものではないか、ということに気づくことができたように思う。



#### (5) 上田市立第一中学校の实践から

毎年2学年では、進路学習の一環で職業体験を地域の事業所で行っているが、昨年と今年と新型コロナウイルスの影響もあり、実施できなかった。今年は、学校と地域との連携が難しい中ではあったが、地域の方を学校にお招きして職業体験講座を実施した。生徒は全16講座の中から1つ選択し、半日、地域の方と活動を行った。今回は、地域の方に教わるのが中心の活動になったが、学校から地域に発信できると、さらに充実した活動になると思う。



体験講座で作った生徒の作品

### 3 キャリア教育の学びの視点や資質・能力を意識し、取り組み内容を整理する。

#### (1) 東御市立祢津小学校の实践から

子どもの学ぶ姿勢を育むため、学校全体での日課や家庭学習を見直し、子ども達が自分の

興味・関心のあることを追究する場や、クラスや他の学年の児童と関わる機会を設けた。

- ・「ワクワクデー」の実施。毎週月曜日の掃除を取りやめ、昼休みを給食後の40分程度遊びの時間として確保した。好きな遊びをしたり、仲間とレクリエーションを楽しんだり自分の「したいこと」を考え、行動する。また、クラスや学年みんなに関わり、遊ぶ場とする。結果、月曜に学校へ来ることが楽しいと感じる児童が増加し、自分のやりたいことや、他者と関わって遊ぶことで自己・他者理解が深まっている様子が見られた。
- ・「チャレンジデー」の実施。毎週水曜日は、家庭学習をなくし、自分の考えたやってみたいことに挑戦する日とした。自分の好きなことにとことん打ち込んだり、学習や習い事について苦手や得意と向き合っ取組を考えたり、年齢に応じた取組を行うようにしている。

## (2) 上田市立北小学校の実践から

北小学校では、教育活動のあらゆる場面でキャリア教育で育てる資質・能力を意識した取組を行っている。例えば、自己理解・自己管理能力を高めるために、毎週水曜日には清掃なしの「ハッピータイム」を設け、外遊びの場と時間を確保している。「遊びは生きる力の源。子どもたちの生活のそのものである。遊びを通して自己や友達の尊厳に気づき、生きる意欲を育て、正解を切り拓いていく冒険心を養う」というキャリア教育にもつながる目標のもとに設定され、大胆に外で遊ぶことを通して、自分や友達の良さに気づいたりお互いを認め合ったりすることをねらっている。また、音楽会や運動会などの行事の際には、成功したかではなく努力したかに目を向けさせている。学年掲示板や学年集会など、自分の取組の良さや頑張り、思いやりの姿など、個々の良さを担任が認めたり、子どもたち同士で認め合う場面を設けたりすることで、自分の良さや価値ある姿に気づけるようにしている。

## 五 研究のまとめと課題

「1 『キャリア・パスポート』の活用の工夫」については、行事の振り返りを書いてただ綴じ込むだけでなく、子どもの「自己理解」「他者理解」「役割理解」につながるように、パスポートや自分の足跡を見返す時間を設けたり、視点をもたせて振り返りを行ったりするなど、教師のひと工夫が大切だということがわかった。ただ何よりも、子どもが活動や体験をし、そして自らを振り返ることを大切にしていきたい。

「2 学校と地域社会との連携の推進」については、コロナ禍により体験活動が制限されたとしても、子どもの学びのために、上記の実践のように地域の方と連携しながら「コロナ禍でもできること」を模索していきたい。

「3 キャリア教育の学びの視点や資質・能力を意識し、取り組み内容を整理する。」については、今回の学習指導要領の改訂を踏まえ、既存の教育活動を目的に照らして随時見直していきながら、学校教育全体を通してキャリア教育を推進していきたい。

来年度には、今年やむを得ず中止にした先進地域・学校への視察を行いたい。体験活動に限らず、キャリア教育の視点で教育活動全体からその地域・学校の良さを学び、自校に持ち帰って、各校の環境、各学年の発達段階、実態に合った教科の授業に活かした実践をしていきたい。